

# 国営農地再編整備事業「真狩地区」における 地域との連携 —教育支援パートナーシップの取組—

小樽開発建設部 後志中部農業開発事業所 ○石岡 浩一  
大川 康広  
宮武 功

国営農地再編整備事業「真狩地区」の着工を契機に、地域の担い手である地元の真狩高校の生徒に対して、農業に関する基礎知識と規範意識を持ち優れた産業人の育成を図ることを目的とし、平成20年度より真狩高校と小樽開発建設部との間で教育支援パートナーシップの協定を締結して、地区のフィールドを活用した学習活動等を継続して実施している。本報ではこれまでの取組状況について報告するものである。

キーワード：人材育成，多様な連携・協働

## 1. 真狩地区の事業概要

真狩地区は、北海道南西部の後志支庁管内に位置し、秀峰羊蹄山の南部に拓けた畑作地帯である。（図-1）

本地域の農業は、ばれいしょ、小豆、てんさいを中心とした土地利用型作物に加えて、だいこん、食用ゆり根、にんじんなどの収益性の高い野菜を導入した複合経営を展開している。

なかでも、昭和40年代から本格的な生産が始まった食用ゆり根は、主に関西方面に出荷され、生産量においては日本一を誇っている。更にゆり根の栽培技術を生かし、ゆりの切り花や施設野菜についても生産されている。

しかし、本地区の農地は区画が不整形であり、一部に不規則な傾斜や排水不良等も起こしていることから、効率的な機械作業が行えず生産性も低く、農業経営は不安定なものとなっている。

このため、本事業で5haの農地造成と1,023haの既耕地とそれに隣接する未墾地を再編整備する区画整理を一体的に施工し、生産性の高い基盤整備を行うとともに、換地による土地利用の整序化により農業経営の規模拡大と合理化を図り、農業振興を基幹とした地域の活性化に資することとしている。

## 2. 教育支援パートナーシップの取組

### (1) 概要

真狩高等学校（以下、「真狩高校」と言う）と小樽開発建設部（以下、「小樽開建」と言う）との間で交わしている教育支援パートナーシップへの評価に関する協定書（以下、「協定書」と言う）のなかで、実施事項として以下の3点について記載している。

- a) 授業等における指導および助言
- b) 授業等における特別講座の実施
- c) その他必要に応じて実施



図-1 真狩地区 位置図

この協定書を踏まえて、小樽開発後志中部農業開発事業所（以下、「当事業所」と言う）と真狩高校の双方が教育支援パートナーシップ推進事務局を担い、次世代を担う生徒たちが、現地で実際に農業農村整備事業の実施に触れる機会を設けることにより、その目的や農業生産の重要性、食料供給の意義などについて啓発・学習させる。

生徒が自ら学ぶ意識や思考力、表現力、判断力を発揮するよう誘導するため、地区のフィールドを活用した学習活動を実践するということに趣をおいて、毎年、具体的な取組内容について双方で確認を行い進めている。

### 3. 真狩高等学校の紹介

(1)所在地は虻田郡真狩村

(2)沿革の概要は、以下のとおりである。

昭和23年 倶知安農業高等学校真狩分校として開校

昭和27年 真狩高等学校として独立

現在に至る。

(3)学科は農芸科学科でそのなかに有機農業コースと野菜製菓コースがある。

有機農業コースは、草花や作物の慣行栽培の基本を学ぶとともに、有機農業に関する知識と技術を習得し、環境に配慮した農業のスペシャリストを目指している。

一方、野菜製菓コースは、作物栽培の基本を学ぶとともに、野菜を素材とするお菓子やパンへの加工や調理技術を習得し、農業と食に関する幅広い視野を持つ食品のスペシャリストを目指している。

それぞれのコースで、3年、4年制の選択が可能となっている。

### 4. 教育支援パートナーシップ取組事例の紹介

(1) 授業等における指導および助言

—校内発表大会への参画—

校内意見発表大会は、身近な問題について抱負や意見を交換し、問題解決のための自主的、積極的な能力と態度を養うことを目的として5月に行われている。

また、各分科毎にグループで研究したテーマについて12月に発表が行われる校内実績発表大会（写真-1）が毎年開催され、その際の審査員長として当事業所長が出席している。

審査員長の役割としては、発表の内容や発表の仕方といった観点から審査を行い、ほかの審査員の評価も勘案して最優秀賞および優秀賞を選定し、最後に講評を述べている。（写真-2）

それぞれの発表大会は、農業クラブの取組の一環として、南北海道大会の予選も兼ねていることから、講評では、「もっと元気で聴衆を意識して発表した方がよい。」との助言や「いずれの発表も持ち味が発揮され、審査にとっても苦勞した。これからもますますの活躍に期待している。」との激励の言葉を述べている。

(2) 授業等における特別講座の実施

—工事現場見学会の実施—

次世代を担う生徒たちが、現地で実際に農業農村整備事業の目的のほかに、農業生産の重要性、食料供給の意義などについて啓発・学習してもらうための特別講座として毎年、現場見学会を実施している。

現場見学会では、工事現場の見学のほかに農業農村整備事業の必要性、真狩地区の事業概要および食料自給率向上の重要性や北海道農業の位置付けについても説明を行っている。



写真-1 校内実績発表大会での発表例



写真-2 審査員長として講評を述べる事業所長

工事現場見学の際に生徒からは「この現場の工事費用はいくらか。」「スクレップドーザーの運転席はなぜ横を向いているのか。」「工事完了後、以前と比べてどのように良くなったか追跡調査を行っているのか。」

「この事業は、農家が要望するとすぐにできるものなのか。」といった多くの質問があり、事業に対する関心の高さが伺えているところである。（写真-3）

また、地域の主要作物であるだいこんの選果の過程を知ってもらうために、JAようていの協力のもと、だいこんの受入れから洗浄、選別、出荷までオートメーション化された作業工程の選果場見学を実施している。（写真-4,5）



写真-3 普段見ることのない重機に興味津々



写真-4 だいこん選果場を見学する生徒達



写真-5 だいこん選果場内の様子

### (3) 授業等における特別講座の実施

#### —環境教育特別講座の実施—

ここでは、①真狩村は水が豊富で綺麗であること。②豊富な水資源の恩恵を受けて希少生物が生息していること。③希少生物の生息環境の条件は何か。ということの説明し、地域の自然環境について学んでもらう取組を実施している。

具体的には、事業の環境配慮対策としてほ場整備の施工を一部回避し、ザリガニの生息場を保全した湧水箇所において、ザリガニの生息状況と水質調査を平成22年度から実施している。(写真-6)

本年度の取組事例を紹介すると、まず、ザリガニの採取では、落ち葉をそとめくり地表水の流れの変化によりザリガニが現れるのを待って捕まえ、その後、採取したザリガニの雌雄の確認および体長計測を行った。(写真-7,8,9)

次に、水質状況を確認するため水温測定や簡易キットを用いてpHの測定を行った。(写真-10)

調査の結果、ザリガニの生息数は過年度と大きな変化が無いこと、水温も10℃程度の低温であること、pHが中性(7.0)であった。また、周囲の環境は、地下水が供給され、広葉樹に覆われていることを確認した。

本講座により、真狩村には希少生物であるザリガニが生息するための良好な環境条件が保全されていることを生徒達が身をもって知ることが出来たこと、更に真狩高

校生が講師となり地元中学生への環境講座を実施したり(写真-11)、校内実績発表大会で環境モニタリング調査について発表するなど、自然環境の大切さを学び、生徒が自発的に活動を行うことが大きな成果であったと言える。



写真-6 ほ場整備の一部を回避して残した樹木



写真-7 枯れ葉をめくりザリガニを採取している様子



写真-8 採取したザリガニの雌雄を確認

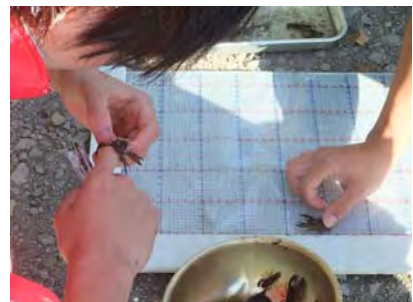


写真-9 採取したザリガニの体長を計測



写真-10 カラーチャートと見比べて pH を測定



写真-11 高校生による中学生への環境講座

#### (4) その他の取組

前述のほかにも本地区の事業実施で発生する農地法面を活用した法面植生の検討を実施した。

この取組は、真狩高校バイオ園芸分会によるローマンカモミールの植生を行うとともに（写真-12）、そのハーブから抽出したハーブウォーターを地域の特産品である「ばれいしょ」の病害虫対策として用いることにより、減農薬栽培の試みとして行ったもので、真狩村の農業（技術）、観光（景観）、商業（加工、販売）が連携して地域の活性化に繋がればとの生徒からの発案である。



写真-12 法面にローマンカモミールを移植作業

## 5. 教育支援パートナーシップの効果

学校側の教育支援パートナーシップへの評価として、校内発表大会の審査員については、①客観的な立場から評価してもらうことが出来る。②農業分野に精通しており、適確なアドバイスが得られる。

真狩地区工事現場見学会については、①地域で行われている農業のための事業を知ることが出来る。②農業生産のための基盤整備の必要性を学ぶことが出来る。③日本農業が抱える課題などを学ぶ機会となっている。

環境教育特別講座については、①環境に係る知識・技術を学ぶことが出来る。②生徒達の自然環境に関する意識が変わった。③生徒自らが中学生への環境講座を企画するなどの積極性が生まれ、有意義な学習メニューとなっている。

## 6. おわりに

本事業の実施により、今後も地域の発展に資することを使命として、農業基盤の整備を進めるとともに、真狩地区のフィールドを活用した学習等を通じ、教育支援パートナーシップの取組により、生徒達にはさまざまな効果が得られていると感じているところであり、今後も活動内容について、学校側が負担と感しない程度に連携して人材育成に寄与できる取組を継続していきたいと考えている。

